

鹿児島大学障がい学生支援シンポジウム 2019 開催報告

概要

日時 令和元年 10 月 4 日〔金〕 14:00～16:30 会場 鹿児島大学学習交流プラザ 2F 学習交流ホール

総合司会 前田 雅人(本学学長補佐 法文教育学域教育学系教授 障害学生支援センター長)

開会挨拶 武隈 晃氏(本学理事 教育担当)

第一部：基調講演『『まだ道半ば』～障がい学生支援と某国立大学の挑戦～』

講師 ピーター・バーニック氏(長崎大学 障がい学生支援室「アシスト広場」助教)

第二部：体験発表「障害のある学生からみた受験・大学生活・それからについて」

司会：今村 智佳子氏(本学障害学生支援センター特任助教)

助言：ピーター・バーニック氏

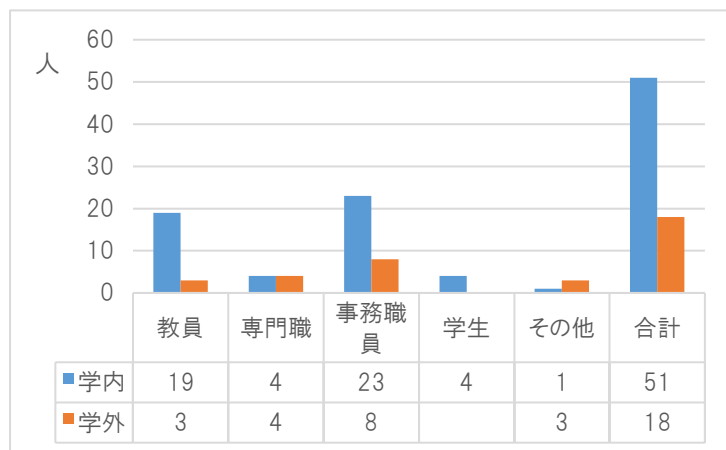
発表者：本学学生

閉会挨拶 前田 雅人

情報保障 UD トーク 線音源スピーカー

参加人数及びアンケート結果

参加人数



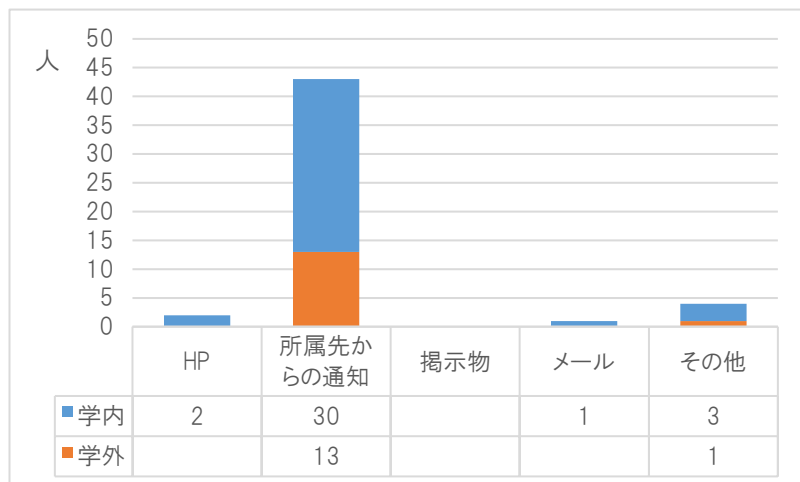
参加人数

(学内 51 名 学外 18 名 計 69 名)

アンケート回答数

(学内 37 名 学外 16 名 76.81%)

このシンポジウムをどこでお知りになりましたか？複数回答)



基調講演の感想をお聞かせ下さい。

- ・合理的配慮をする上での具体的な基準のイメージがつかめた。(本学教員)
- ・合理的配慮という言葉は知っていたが、実際にどのように配慮をするかというのは色々な角度から考慮し、原点や本質に立ち返ってみることが大変なのだと感じた。(本学事務)
- ・長崎大学の現状と課題について具体的に分かりやすく話しして頂き大変勉強になりました。支援は生涯続く長い道のりなのだと感じました。(本学専門職員)
- ・授業でも他の活動でも、その目的「本質」をきちんと提示することが重要であることを再認識した。これは障害者に対するだけでなく健常者にとっても重要なことであると考えます。(本学教員)
- ・ピーター先生のお話がとてもわかりやすく課題や課題への取り組み方などとても勉強になりました。配慮する目的は何か、しっかり考えたいと思いました。(学外事務)
- ・具体例がありわかりやすかった本質はなにかが理解できた。(学外専門職員)
- ・実践例、取り組み、今後の課題これらがどの大学でも共通するものであり、講演内容からは、今後の解決の糸口が示されていたと思います。(学外教員)
- ・発達障がい、精神障がいは個別の事案が多いだけに実例が大きなヒントを与えてくれました。学部担当の医師がおられるとはうらやましいです。(学外専門職員)

	とても良かった	良かった	普通	あまり良くなかった	回答なし
学内	24	9	1	0	0
学外	15	2	0	0	0
合計	39	11	1	0	0

体験発表の感想をお聞かせ下さい。

- ・「実際に会って話し合いが出来ることが大事」「気兼ねなくできることが嬉しいこと」「サポートが『100から0』に変わることが大事」大変心に残り実践・その細やかなサポートに生かしていこうと思いました。(本学教員)
- ・3人共に強い意志をもって発表してくださったことがよく分かり感動しました。これから私共ができることについて支援について大変勉強になりました。(本学専門職員)
- ・事前の話し合いが学生の不安軽減にとっても有用とわかった。素直な不安をきくことができたので、よく理解できた。勇気を出して発表して下さった学生さんはとてもすばらしいと思った。(本学教員)
- ・事前の話し合いが学生の不安軽減にとっても有用とわかった。素直な不安をきくことができたので、よく理解できた。勇気を出して発表して下さった学生さんはとてもすばらしいと思った。(本学教員)
- ・3人の方々それぞれ課題を克服し、努力されてきたことが伝わってきました。多様性を認める共生社会になればいいですね。(本学事務)
- ・この場で発表する事そのものが彼女たちにとって大きな挑戦だったと思います。当事者が議論の中に加わることで、サポートする側が見えていなかった。わかっていなかった事に気付くことができると考えます。学生達から多くのことを学びました。(学外教員)
- ・3名の学生さんそれぞれが自分の体験をお話しされて、障がいを持っている方の気持ちが理解できました。非常に心打たれました。(学外事務)
- ・当事者(学生)の声(思い)が聞けた事は、とても良かったです。成長する学生の発表はすばらしかったです。(学外事務)

	とても良かった	良かった	普通	あまり良くなかった	回答なし
学内	29	3	0	0	0
学外	13	3	0	0	0
合計	42	6	0	0	0

障害を有する学生やつまずきのある学生との関わりの中で、困った経験等があればお書き下さい。

- ・専門知識がないままに繊細な学生、不安な精神状態の学生に対し、そんな時でも窓口に来れば対応すること、特に時期もムラなく対応するという事に難しさを感じています。(どの学生にもできるだけ同じような熱量で話すようにはしています)(本学事務)
- ・教員の理解が難しい。(T,Sの問題もある)(本学専門職員)
- ・連絡がとれないことが多い。(支援が必要な学生のメール返答がなかなかない、TELしても出ない)面談で「～(受診)していきましょう」と話し合っても実行されない。説明や訴えの真偽がはっきりしない、このような学生の対応にとまどっています。(本学教員)
- ・困っているけど、支援はしなくていい。支援室につながらない学生の対応に限界があること。(学外専門職員)
- ・合理的配慮の考えを伝え、大学側ができることには限界があることを伝えても、要求の通らないことに怒りがおさまらない方がいました。小中高と要求全てを通してきたそうで、こちらの対応を「優しさが足りない」と判断され、その対応に困りました。(学外専門職員)
- ・相談事、悩み事があっても窓口に来ない、来たくない学生への対応自主性を考えれば、こちらからあまりアプローチできないが、、、(学外教員)

障害学生支援における課題としてお考えのことがあれば、ご記入下さい。

- ・全学の方針がないと各部局での動きがとりにくいという状況があること。(本学教員)
- ・前もって配慮を行っておくことを実際に行うのは難しいと感じます。(費用の面でも誰が担当するのかといったような面でも…)申請があつたら動く、という受け身の態勢が変わっていけばなあと思います。(本学事務)
- ・大学の“障がい学生支援体制”と“合理的配慮の一般的ながれ”どこにアクセスすれば確認できるか教えて下さい。(本学教員)
- ・バリアフリーを整備したいがお金がない。(本学事務)
- ・先生方の理解の温度差。(学外専門職員)
- ・こうした情報共有の機会、当事者の話に耳を傾ける機会を多く設けること。教育関係者がより多くその場に参加すること。(学外教員)
- ・支援体制の問題。(学外教員)
- ・小中高と親と先生が敷いた支援のルールを通ってきた子がいきなり大学で一人暮らしをはじめ、ガラリと違う授業形態を受ける事は大変だと思います。そのギャップをどう埋めていくかを課題と考えています。(学外専門職員)
- ・幼児からの教育の重要性、共生しながら多様性を認め合えるような教育を。(学外教員)

今後講演で取り上げて欲しいテーマ、その他ご感想やご意見がありましたら、ご記入ください。

- ・入学前までに何ができるかということについて、大学進学を考えている多様な学生に対して彼らが小・中学生のうちから発信する方法について(本学教員)
- ・鹿大でどのような取り組み、支援制度があるか、十分に認識できていないので説明会のような場を設けてほしい。(本学事務)
- ・発達障害などがあある学生の就職支援、進路変更についての提案(検討)法(本学教員)
- ・体験発表をぜひ続けていただきたいです。毎年参考になるシンポジウムを開催していただきありがとうございます。(学外事務)
- ・車いす学生のインターシップ先、開拓法(学外専門職員)

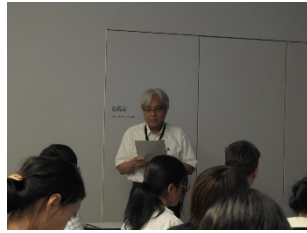
・学生の体験や実感していることから学べることを、多かったので又お話をききたいと思いました。（学外専門職員）

写真

開会の挨拶



講師紹介



第一部基調講演



第二部体験発表

